指導のポイント

○　道徳の時間において、家庭や地域社会との連携を図った指導は、道徳教育の意義やねらい、生徒の実態について、保護者や地域住民と共通理解を図り、相互の連携・協力を図ることにつながります。

具体的事例

○　できることから始めましょう。

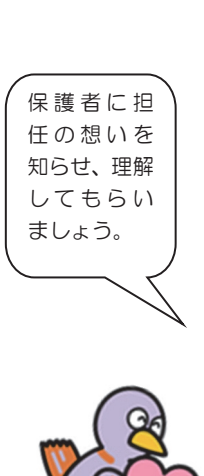
道徳通信（学級通信）

まずは、学校から情報提供して、道徳の時間について、理解してもらいましょう。

［内容］

- 道徳の時間で扱った資料名やねらい
- 生徒の書いたワークシートの内容を紹介
- 保護者の感想などを書いてもらう欄　　等

保護者に担任の想いを知らせ、理解してもらいましょう。


○年○組学級通信(by ○○)

道徳通信

○月○日 No.○

資料名　「命のタスキ」　彩の国の道徳

資料について

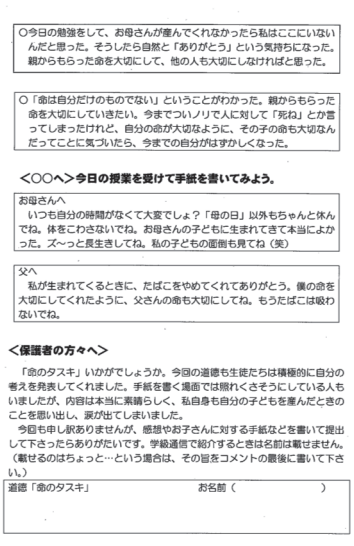
主人公の智子は、携帯電話の使い方や門限に対して母親をうるさく思っていた。ある日、友だちのことを悪く言われて「本当にうるさい。好きであなたの娘に生まれてきたわけじゃない」と思わず母親に言ってしまう。保健の授業や母の生い立ちから生命のつながりを感じる主人公「智子」。智子の心の変化を探ることで、命のタスキに込められた思いを考えさせる資料である。

担任の想い

「かけがえのない命」について言葉で理解はしていても、日々の生活の中で立ち止まって考える機会って、あまりありませんよね。つい生命を軽視するような軽はずみな発言をしてしまい、人を傷つけてしまうってことありませんか。お母さんは命が付であなたたちを産んでくれました。大切な宝物のであるあなたたちに「自分の命を大切に」「他の命を大切に」していって欲しいと心から願っています。そのためにも、協力したり、団結したりする活動を大事にし、思いやりの心をもって生活しましょう。この資料では、命のつながりについて考えました。かけがえのないあなたたちが、命の尊さについて考えてくれてとても嬉しいです。

<授業で考えたことを書いてみよう>

○家庭科の宿題でお母さんにインタビューをしたときに、「あなたは流産しそうになって、お母さんは妊娠中は不安で不安で夜も眠れなかった」と答えていたことを思い出しました。私にとって大切な命は、お母さんにとっても大切な命なんだと、今日の授業を受けて思いました。


○今日の勉強をして、お母さんが産んでくれなかったら私はここにいないんだと思った。そうしたら自然と「ありがとう」という気持ちになった。親からもらった命を大切にして、他の人も大切にしなければと思った。

○「命は自分だけのものでない」ということがわかった。親からもらった命を大切にしていきたい。今までついノリで人に対して「死ね」とか言ってしまったけれど、自分の命が大切なように、その子の命も大切なんだってことに気づいたら、今までの自分がはずかしくなった。

<○○へ>今日の授業を受けて手紙を書いてみよう。

お母さんへ

いつも自分の時間がなくて大変でしょ？「母の日」以外もちゃんと休んでね。体をこわさないでね。お母さんの子どもに生まれてきて本当によかった。ズ～っと長生きしてね。私の子どもの面倒も見てね（笑）

父へ

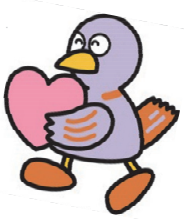
私が生まれてくるときに、たばこをやめてくれてありがとう。僕の命を大切にしてくれたように、父さんの命も大切にしてね。もうたばこは吸わないでね。

<保護者の方々へ>

「命のタスキ」いかがでしょうか。今回の道徳も生徒たちは積極的に自分の考えを発表してくれました。手紙を書く場面では照れくさそうにしている人もいましたが、内容は本当に素晴らしく、私自身も自分の子どもを産んだときのことを思い出し、涙が出てしまいました。

今回も申し訳ありませんが、感想やお子さんに対する手紙などを書いて提出して下さったらありがたいです。学級通信で紹介するときは名前は載せません。（載せるのはちょっと…という場合は、その旨をコメントの最後に書いて下さい。）

道徳「命のタスキ」　　お名前（　　）



授業の様子や生徒の感想などを掲載して、生徒のよさや道徳の授業の大切さを知らせていきましょう。道徳教育について理解･協力してもらうよい機会になります。

＜こんな返信がありました＞

○○が大人になって子どもができたら、○○の子どもにも私やお父さんがしてあげた良いことをしてあげて欲しいと思います。兄弟がたくさんいることは嫌だと思うかもしれませんが、大人になったら良かったと思えることもいっぱいあるはずだよ。いらない命なんてないし、お母さんは子どもが１人、また１人と増えるたびに、本当に嬉しかった。一度しかない人生、一生懸命生きて欲しいと思います。

道徳の授業の公開

保護者や地域の方に道徳の授業を公開し、道徳教育に関心を持ってもらいましょう。理解や協力をしていただけるきっかけにもなります。家庭用「彩の国の道徳」を保護者の方に持参してもらい、一緒に考えてもらうのもよいでしょう。

地域の方や保護者の参加を得た授業

地域の方や保護者の道徳教育への理解が深まります。また生徒にとっては、大人から直接学ぶことにより、道徳的価値の理解や人間理解の深まりが期待できます。

ア　ゲストティーチャーとして協力してもらう

○　「ねらいとする道徳的価値は何か。」、「どの段階で協力してもらうのが効果的か。」を考えましょう。

導入…実演などをしてもらい、生徒の興味･関心を喚起する。
終末…ねらいとする道徳的価値にかかわる体験などについて話をしてもらい、生徒が主体的に考えられるようにする。

保護者や地域の方をゲストティーチャーに迎える。

保護者等との事前の打合せを入念に行いましょう。

イ　保護者参加型の授業

生徒と同じように話合い活動に参加してもらい、保護者も一緒に道徳的価値について考えてもらう授業です。

保護者も一緒に考える。

どのように参加してもらうか事前に考えておきましょう。
・生徒と保護者等と全員で話し合う。
・生徒のグループの中に入ってもらう。
・保護者だけのグループにする。

保護者等には、何について話し合うのかなど事前に連絡しておきましょう。

＜授業に参加した保護者から＞
　とてもよい授業を受けさせていただき、ありがとうございます。他人への感謝など、私自身も自分を振り返り、いろいろと考えました。娘も同じだったようで、夕食を食べながら家族で話しました。他人に優しくなれる、他人に感謝できるなど、生きていく上で大切だなと改めて思いました。大切なことを今の子どもたちにわかってもらえる授業でした。

Point

○　ふだん人前で話をする機会が少ない方が、生徒の前で話をすることは、緊張を伴ったり、プレッシャーを感じたりするものです。保護者等に大きな負担をかけないために、**事前に入念な打合せ**をしておくことが大切です。話す内容等、担任が前もって確認するとよいでしょう。

○　公開授業や保護者参加型授業では、できるだけ多くの保護者等に参加してもらうために、**ふだんから担任が道徳教育に対する想いや熱意を保護者に伝えておく**ことが大切です。道徳通信（学級通信）などは効果的です。

留　意　点

○　生徒のワークシートや保護者のコメントは、人に知られたくないことを書いてある場合もあるので、取扱いに注意しましょう。前もって道徳通信等に掲載してもよいか確認しましょう。

○　家庭や地域社会との連携を教師一人で進めるのは大変です。道徳教育推進教師等に相談し、学校全体で組織的に進めていくとよいでしょう。